青少年問題協議会
令和６年７月４日

資料２

令和６年度第１回青少年問題協議会専門部会について

専門部会で決定したテーマ「オンライン時代の居場所」

テーマ設定の経緯

・いくらネットやＳＮＳが普及しても生きていくにはリアルのやり取りが必要である。しかし、ＳＮＳ等を含めて考えざるを得ない。
・居場所は学校、家に限らず、SNS など、複数あって良い。
・第 10 期のテーマはＳＮＳだが、それに上乗せして考えるのもよいのではないか。

主な意見

・不登校の子から話を聞くと、ネット上の友達と夜に話をしている。そのため昼夜逆転している。
・ネット上の友達（地方に散らばっている）とは写真を交換していて、信頼はしている。しかし、その写真が本物かは不明であり、危機感を感じていない。
・対面で周りの生身の人間や大人たちと関わるような環境が必要だなと感じた。
・顔を見なくても一人で調べものや宿題ができてしまう。
・学校からのおたよりも電子になり、同じ空間にいても子は子で、親は親で端末を見るようになり、親子の会話が減っている
・親の就労状況もあり、学校からタブレットを配布されているが、それで何をしているのか、何が送られているのか親が把握できていない状況。より個々になっている。
・学校からのおたよりも個々で届くので確認しづらく、子どものやっていることもチェックしていない。
・コミュニケーションについての問題が大きいが、居場所としてのテーマの中にＳＮＳも含めていくのはどうか。
・時間制限を設けて、SNS やゲームの利用をすることは良いことである。保護者の就労状況を考慮すると制限をしないと保護者が子供たちについていけなくなる。
・子どもたちは、親に干渉されず自分の好きなことを話すことができる場所に対して、居心地が良いと感じている。
・西東京市の子ども達のことを知りたい。

資料２

対策

・親子で一緒にタブレットなどの使い方の学習をするなどで関わる機会があったほうがいい。
・居場所としてネットのコミュニティなどに入り込むのは仕方ないが、市がオンラインでそういう場所を作ってみてはどうか。
・子どもたちがしていることに親が興味を持って積極的に参加（ゲーム等）することで、子ども達のスピード感に付いて行く。

調査項目

・西東京市で用意している不登校のための学校に通えている子は何人、通えていない子は何人なのか。どうして通えていないのか。外部の方を招いても西東京市の状況はわからない。
・小学校と中学校からの配付のタブレットでどの程度 YouTube を見ているかの調査（担任の先生は視聴状況を把握している）